



バーコフ教授の來往

山本一清

東京へ米國ハーブード大學の數學教授 G. D. Birkhoff 氏が來てゐるさ
いふこゝは去る二月十日頃知つたが、其の後、東上中であつた新城教授も
同様のニウスを齎して歸洛された。バーコフ教授ご言へば、自分が先年米
國に滯在中、ハーブード大學やボストンで度々會つたこゝもある（「天界」
第42號第240頁等參照）ので、なつかしく思つた。しかし教授は數學者なの
で、送迎は京都大學の數學教授たちご共にするこゝごし、始め、西内教授
が交渉の事に當られた。いよいよ二月十九日の夕刻、特急列車で Birkhoff 教
授夫妻が來着され、自分は西内、園兩教授ご共に七條驛に迎へた。

翌20日は總選舉の日であり、空は雪模様であつたが、午前中は西内教授
が東山あたりを案内され、午餐は同志社の Miss Denton 氏宅で取られた
後、自分は西内教授ご共に夫妻を案内して、金閣寺から御室、嵐山あたり
を案内した。さきの Comstock 氏の場合ごは違ひ、Birkhoff 氏夫妻は老人
ではないので、元氣で、御しやべりで、自動車の中ではいつも賑やかであ
つた。

21日は夫妻は市内の散歩をされたらしい。Denton 宅で晚餐會に列席し
た時、自分は左隣の Birkhoff 夫人から

『プロフェサ・ヤマモト、私たちは今朝獨りで市内電車に乗つて、さうさう
大きいホンガンヂまで行つて來ましたよ！』

ご話されて、驚いた、此の席で Birkhoff 教授は竹内栖鳳畫伯ご、しきりに
畫論を交へて居られた。

22日は Birkhoff 氏夫妻は奈良行。

翌23日午後2時から大學では Birkhoff 教授の特別講演があつた。場所は

工學部の大講堂で、主に理學部と工學部の關係者約200名が集まつた。題は“Two elementary problems in dynamics”といふのであつて、天文學的には Periodic orbit の或る特殊例を見るべき興味深いものであつた。講演後暫く休憩して、教授は總長主催の晩饗會場(樂友會館)に行かれた。——此の間に、自分は英子をつれてホテルへ Birkhoff 夫人を迎へに行き、6時には亦晩餐會場に案内した。晩餐會は Birkhoff 氏夫妻を主賓として、數學物理學天文學地球學關係の諸教授で、總計約三十名、うち解けた會であつた。

24日、朝8時50分、Birkhoff 教授夫妻退京、神戸へ向はれ、西内松本兩教授と共に自分等は之れを見送つた。Birkhoff 氏は今春ドイツ國ベルリン大學に招かれて數學の講演に行かれる途上である。

Birkhoff 教授を送つた翌日、自分は室の一隅に同教授の著書 The Origin, Nature and Influence of Relativity を發見した。

コムストク教授の來朝

山本 一 清

去る二月の初め、或る日の夕刊新聞に、President Jackson といふ船で米國から Comstock 博士夫妻が横濱へ來着したこのニュースが載つてゐたので京都へも必ず來遊されることと思ひ、新城教授は東京邊の天文關係へ、自分は東京京都のホテルあたりへ聞き合せて見たけれど、一寸、京都着の日取りがわかりかねた。しかるに10日の夕刻、京都のミヤコ・ホテルにより同教授夫妻が前日に來着されたこの通知を受けた。

* * * * *

G. D. Comstock 博士は1887年から1921年まで前後35年間、米國 Wisconsin 州立大學 (Madison 市) 天文學教授と天文臺長の職にあつた人であつて先年、其の職を Joel Stebbins 博士に譲つて退隱したが、學界に於いては今尚ほ重きをなし、現に米國天文學會 (American Astronomical Society) の會長 (President) である。Madison の天文臺は自分が滯米中1923年五月に親しく訪問したところあり(「天界」第35號第366頁參照)、其の節 Stebbins 博士